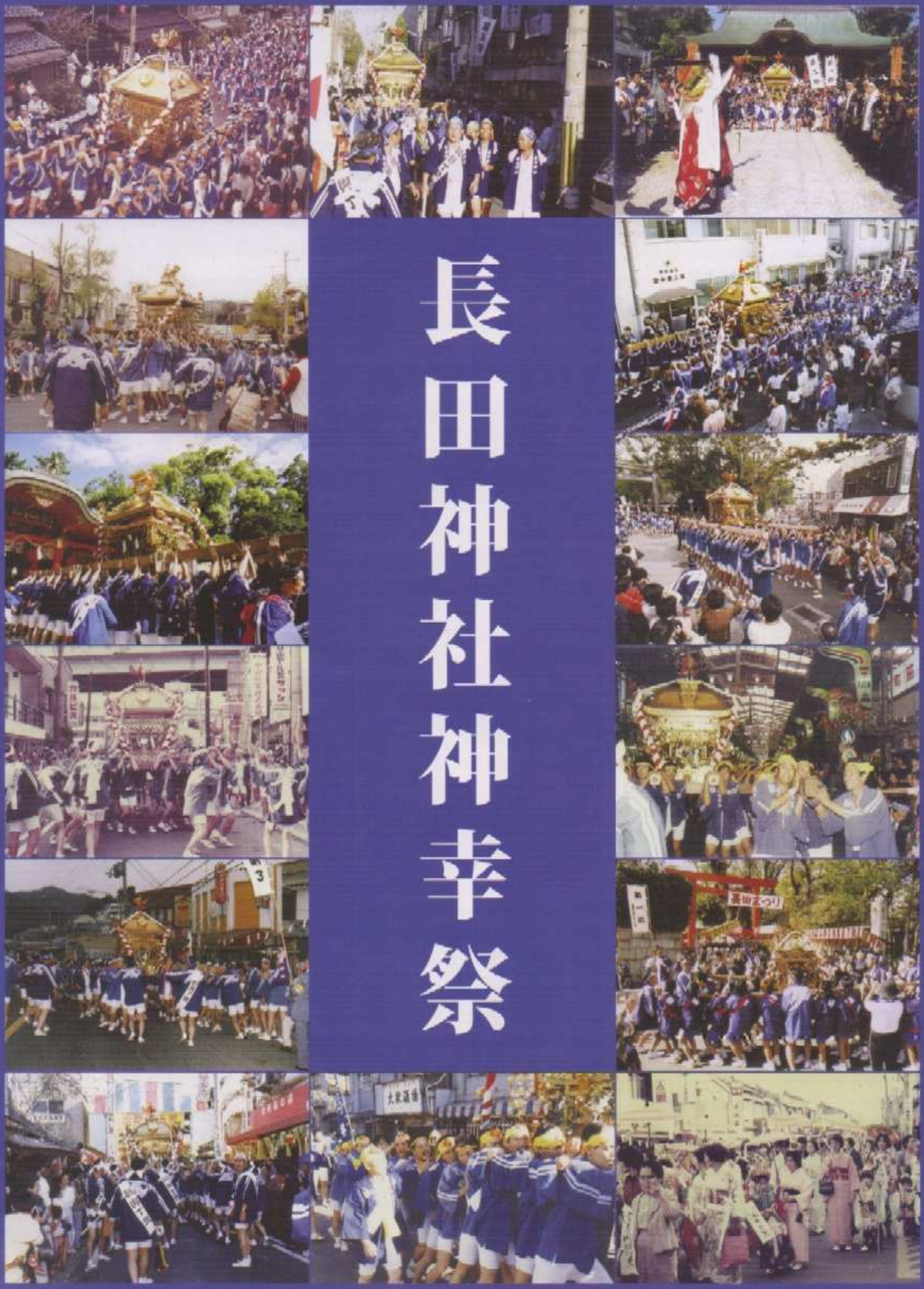


長田神社神幸祭

発行：長田神社おみこし再興委員会　　協力：長田神社・長田神社氏子会・長田神社追儺式奉賛会

1．長田神社について

『長田さん』と古くから親しまれている長田神社。

クスノキが繁る広い境内には、本殿、幣殿、拝殿などの社殿が建ち並び、東大鳥居や社殿の柱の朱色が鮮やかで、クスの緑に美しく映えます。本殿の裏には、神木とされる樹齢800年のクスノキが堂々した姿を見せています。

『事代主神〔ことしろぬしのかみ〕』を祭神とする長田神社の歴史はたいへん古く、なんと『日本書紀』にその名を見ることができます。

神功皇后〔じんぐうこうごう〕の元年(201年)2月、朝鮮半島から帰還途中の神功皇后の船団が、瀬戸内海を難波に向けて和田岬沖を航行中、海上で船が進まなくなってしまいました。不思議に思い占ってみると、事代主神が現れ、「長田の国の鶏鳴〔けいめい〕の聞こえる里にわれをまつれ」というお告げが下ったというのです。そこで、長田の地を探し回った長媛〔ながひめ〕が、ある森に足を踏み入れたところ、突然するどい鶏の声が聞こえ、その森に長田神社をおまつりすることになったといいます。ちなみに日本書紀にいう長田国は、東は湊川(現在の新開地)、西は須磨一ノ谷(摂津・播磨の国境)をいい、その中央を流れる苅藻川の中州におまつりされました。(現在の長田区、兵庫区、須磨区、北区南部)

そんな由来もあって、にわとりが神の使いと尊ばれ、戦前までは「鶏〔とり〕のお宮」として、願をかける時やお礼参りに鶏を奉納する人が多く、境内ではたくさんの鶏が放し飼いにされていたといいます。外国人より『チキン・テンプル』と親しまれました。

祭神の事代主神は大国主神〔おおくにぬしのかみ〕の御子で、「えびすさま」「福の神」とも呼ばれ、商売繁盛の神、開運招福・厄除けの神として、毎月1日の月次祭「おついたち詣り」には多くの人が訪れます。

古来、皇室をはじめ武門〔ぶもん〕の崇敬を集めた、全国有数の名社である長田神社は、明治29年に官幣中社〔かんぺいちゅうしゃ〕に列格されました。

阪神淡路大震災により、本殿以下社殿は半壊に近い状態となり、附属舎の全壊、また、慶安三年(1651)奉納の馬場先大鳥居をはじめ四基の大鳥居、約80基の灯籠並び石造物は全て損壊しました。仮復旧の後、平成9年6月に震災復旧奉賛会を結成、氏子崇敬者の厚い崇敬の奉賽〔ほうさい〕により三ヶ年の時期と約3億円をもって社頭は震災前のたたずまいとなり、平成12年7月14日震災復旧事業竣工奉告祭が斎行されました。また、震災当日より参集殿は臨時避難所として約1ヶ月間150名程が居住、境内は連絡場所並び炊き出し拠点として利用されました。

●長田神社の主な祭典、行事

1月1日　歳旦祭	7月17・18日　夏越祭
2月3日(節分の日)　古式追儺式神事	8月1日　神戸薪能
4月1日　眼鏡感謝祭	10月17日～19日
4月29日～5月3日	神幸祭（長田まつり）
商工業繁栄祈願祭（商工祭）	毎月1日、15日　月次祭

①拝殿

昭和の神社建築として名高い社殿は、本殿、幣殿、拝殿、向拝からなり、拝殿はお参りする建物です。

②本殿

祭神は事代主神。すべての願いである開運招福、商売繁盛、家内安全、除災厄除をかなえて下さる福の神です。

③八幡社

祭神は応神天皇。長田神社をおまつりされた神功皇后の長男神です。

④天照皇大御神社

祭神の天照皇大御神は、日本の国をつくった大元と言われ、すべての恵みを授ける太陽の神様です。月読神の姉神。伊勢神宮は総本社。

⑤出雲大社

祭神は大国主神。長田神社の祭神、事代主神の父神で、だいこくさんとも呼ばれ、縁結びの神様です。

⑥蛭子社

祭神は蛭子神。別名は、えびすさん。大国主神の長男神で、開運招福の神様です。また、神戸七福神でもあります。

⑦月読社

祭神の月読神は月の神様です。天照皇大御神が昼を守るのに対し、月読神は真っ暗な夜を照らして、夜を守ってくれます。
また、胃腸が治るようにお願いする人もいます。

⑧松尾社

祭神の大山咋神は山を守る神様で、山は水をはじめ木やすべてのものを授ける神様とされている。

⑨楠宮稲荷社

祭神は倉稲魂神で、生命の元であるお米の守護神。
稲荷は稲が生る(実る)との意味で、米により人々の生活が成り立ち、すべての元が作られ、発展繁栄できるので、商売繁盛の神様です。

⑩絵馬殿

大きな絵馬を奉納する建物で、見上げると大絵馬が掛かっています。古い物では文化6(1809)年のものがあります。古くは、願い事に本物の馬を供えましたが、時代とともに、板に馬の絵を描いて供えるようになりました。

⑰鬼倉の屋根瓦

鬼の顔をした紋

⑪雨乞いの灯籠

本殿中庭の八幡社の後ろにあり、柵のすきまから見ることができます。
田畑への水の恵みを願い奉納されたと伝えられており、弘安9年(1276)に奉納し建立されたとの銘があります。
兵庫県指定重要有形文化財。

⑫御神木

楠宮稲荷社裏にある樹齢推定800年強の楠の巨木。幹回り約5m。樹高約30m。病気が治ると、信仰されています。

⑬官幣中社の社号標

神社を国が管理していた時の社格(神社の格式)で、全国に8万余りある神社の中で、官幣中社は22しかありません。
神戸市内では、長田神社、生田神社、海神社の三社です。

⑭眼鏡碑

長田神社の神様、事代主神が世の中のあらゆる物事を見通せることにあやかり、眼鏡の守り神として、眼鏡に感謝するとともに、物事の見通しがよくなることを願います。毎年4月1日に、眼鏡感謝祭が行われます。

⑱西鳥居前の灯籠の鶏の彫刻

⑮千度石

百度石と同様に、神社とこの石の間を千回往復して、お参りをすると、願いが叶うと言われ、回数が多いほど神様の力がいただけると言われています。

⑯百度石

神様にお願いの祈りをする時、神社とこの石の間を百回往復して、心をこめてお参りをすると、願いがかなうと言われている。

2．長田神社神幸祭（神輿渡御）について

神幸祭神輿渡御〔しんこうさいしんこうとぎょ〕は、雨乞祭〔あまごいさい〕として始まったといわれ、長田神社の記録によると江戸時代の正保3(1646)年8月18日が始まりとなっています。

伝承によれば、雨が降るように祈って、霊験〔れいけん〕あらかな雨乞神輿〔あまごいみこし〕である「黒漆金銅装神輿〔こくしつこんどうそうみこし〕」は、村々を渡御した後、野田乃浜（現在の長田区長柄町）の御旅所〔おたびしょ〕で海中に舁〔か〕ぎ入れて祈願をこめたといわれています。先の保存修理の際にその痕跡が見られました。

当初、神輿渡御が行われるのは干ばつの時に限られ、平年は神社での祭典でありました。明治になると、太陽暦が使われるようになり、祭典等が整備され、また地域の発展とともに、神幸祭の日時や順路の変遷があり、明治7年の渡御には、東尻池村和田御旅所（現在の兵庫区和田山）から吉田新田に新たに設けられた吉田御旅所（現在の兵庫区吉田町）へ、並びに駒ヶ林村野田御旅所（長田区長柄町）から西須磨村須磨御旅所（須磨区須磨浦、現在は須磨区一ノ谷町の須磨浦公園）へと変更拡大され、斎行日〔さいこうび〕は大正2年より例大祭〔れいたいさい〕翌日の10月19日に改定され今日に至っています。

長田神社の氏子地区〔うじこちく〕は、旧村（長田・池田・東尻池・西尻池・西代・須磨）と、その後の町並みの発展開発等により、現在15部20地区に区分されています。奉仕は、舁番〔かきばん〕として毎年各部の交代により斎行されるが、各部地区合同奉仕もあり、約10年に一度の奉仕となります。

渡御巡幸路〔とぎょじゅんこうろ〕は、東西の御旅所（吉田・須磨）と氏子地区内の約35kmとなるが、まず神社から正面参道を馬場先鳥居まで舁ぎ、次に東西の御旅所（吉田・須磨）まではトラックで移動し渡御祭典の後、舁番奉仕地区内で子ども神輿、稚児行列〔ちごぎょうれつ〕を従えて練り舁ぎ、再びトラックで馬場先〔ばばさき〕に戻り、馬場先参道を還御〔かんぎょ〕となります。

古来の伝統を受け継ぎ伝える神幸式には、七首の神輿歌〔みこしうた〕があり輿丁〔よちょう〕（神輿を舁ぐ人）全員が、この歌を歌って長田神社の鎮座の由来に基づき、船が波を切り進むが如く左右に神輿を振り揺らし、輿丁は「千歳楽〔せんざいらく〕、萬歳楽〔まんざいらく〕」と発声して勇壮な神輿振りで練り舁ぐ等、多くの各所作が守り継がれています。

また、輿丁は10日間程の奉舁と神輿歌の練習を重ね、奉仕前日には、全員須磨海岸で海に入り、海水での禊〔みそぎ〕を行い、身を清めます。

◆氏子会について

氏神の鎮まります土地に生まれ住むものを室町時代以降「氏子」といい、古来、長田の氏子地域は苅藻川〔かるもがわ〕の対岸、あるいは下流を中心にして成立したものです。

氏子会は、明治43年10月18日の氏子集会において全氏子区域の総意により結成され、現在は次の15部からなり、長田神社の神幸式をはじめ諸行事の奉仕をします。

①長田部　②池田部　③長田北部（丸山、名倉）　④長田東部
⑤長田中部　⑥長田南部　⑦御菅部　⑧尻池北部
⑨運南部（吉田・金平、御崎・浜中）　⑩尻池南部（真野、南協）
⑪西尻池部　⑫真陽部　⑬西須磨部　⑭西代部（北、南）
⑮御神楽部（北、南）

大正時代の神輿渡御（八雲橋）

神幸祭でにぎわう長田神社境内（昭和60年）

★黒漆金銅装神輿

国の重要文化財（昭和44年6月30日指定）源頼朝が奉納したといわれており、特に装飾具が優れ、よく古神輿の姿を伝えています。
康正3(1457)年修理の棟札があり、足利尊氏奉納とも考えられます。
昭和58～59年に解体保存修理が行なわれました。普段は宝物庫に保管されており、神幸祭に使われる神輿は別のものです。

★輿丁等の編成

輿丁頭	1名
副輿丁頭	3名
部長輿丁	15名
輿丁	55名（編成3班）
歌出し	10名
太鼓	10名
猿田彦	2名
警護	10名（猿田彦警護）

◆神幸式行程　発御祭 ～（八雲橋を渡り馬場先参道を馬場先へ・奉昇）～ 馬場先鳥居 ～（車輌行列）～ 吉田御旅所祭（奉昇）～（車輌行列）～ 須磨御旅所祭（奉昇）～（車輌行列）～ 昇番地区神幸渡御（奉昇）～（車輌行列）～ 馬場先鳥居（社頭へ・奉昇）～ 還御祭

発御祭

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

昭和52年（真陽部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

平成２年（尻池南部）

発輿

平成５年（西代北部・西代南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

八雲橋を渡り馬場先へ

平成16年（長田中部・長田南部）

馬場先鳥居

平成４年（西須磨部）

馬場先鳥居から車輌行列

昭和51年（西尻池部）

吉田御旅所祭

昭和52年（真陽部）

吉田御旅所を出発

平成５年（西代北部・西代南部）

車輌行列（須磨御旅所へ）

昭和61年（御菅部）

須磨御旅所祭

平成６年（御神楽北部・御神楽南部・池田部）

須磨御旅所祭（猿田彦）

昭和59年（長田部・長田東部・長田北部）

長田神社へ還輿

平成16年（長田中部・長田南部）

還御祭

昭和52年（真陽部）

平成16年（長田中部・長田南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

◆吉田・須磨御旅所について

御神輿〔おみこし〕のお渡りをお迎えし、お祭りを奉仕してしばらくお休みいただく所で、氏子地区内の相応しい所に設けられます。

吉田は、尻池の人達が新田を開拓し移った所で、古くは吉田新田と呼ばれました。

須磨は、漁業で栄えた所で、昔は長田より須磨までの間は人家は無く田圃でした。

平成16年（長田中部・長田南部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

◆猿田彦について

神々が地上に天下られた時に安全を図り、道案内をされる神。

全てを見透す眼力と諸悪を切り払い防ぐ威力をもち、鬼や天狗の姿をしています。

お渡りの先頭を進むのは、神様をお守りするためであります。

昭和52年（真陽部）

平成２年（尻池南部）

◆浦安の舞について

浦安の舞は、昭和８年今上陛下（平成天皇）御生誕の年、昭和天皇が「朝海〔あしたのうみ〕」と題して「天地〔あまつち〕の神にぞ祈る朝なぎの海のごとくに波たたぬ世を」とお詠みになった御製〔ぎょせい〕に、時の宮内省学長多忠朝〔おおのただとも〕氏が作曲振付されたものです。紀元二千六百年奉祝に制定されたこの神楽舞は、その年昭和15年11月10日に全国の神社で午前10時に一斉に奉奏されました。それ以来、今日に至るまで盛んに用いられ、神前神楽の代表的な一つに数えられています。

浦安とは、心の安らかなことを意味し、古く日本の国名を浦安の国といったのは、風土が美しく平和であったからです。

昭和の初頭は内外まさに騒然とした動乱の状態で、満州事変（昭和６年）、五・一五事件（昭和７年）、上海事変（昭和７年）、国際連盟脱退（昭和８年）と、昭和天皇の平和を祈る大御心に反する日本国の時代的背景でありました。それ故にこの御製からなる浦安の舞は、平和への強い祈りをひしひしと感じとることができます。

また、浦安の舞は、扇舞と鈴舞とからなっています。前半は祝いの象徴である檜扇〔ひおうぎ〕を、後半は心と心のふれあいの喜びを示す鈴を持って舞います。

昭和52年（真陽部）

平成２年（尻池南部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

平成16年（長田中部・長田南部）

★お稚児行列

昭和51年（西尻池部）

昭和52年（真陽部）

平成２年（尻池南部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

★子ども神輿

昭和61年（御菅部）

平成16年（長田中部・長田南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

◆長田神社神輿歌

○本殿前発興のうた

たびくさの　いぎよう秋の　いよ　まつりかな
　それところを見れば　つゆのたまがき ……千歳楽萬歳楽

長田神の有難い恵みにより、豊饒の稔りの秋、祭りの時を迎える事が出来た。見渡せばいたる処、露の盛り満る如くの豊作だ。

○神門前のうた

ちはやぶる　神の長田に　いよ　帆をあげて
　神もゆたかに　国も治まる ……千歳楽萬歳楽

長田神の高き尊き神徳を仰ぎ、さあ、帆を揚げ船が出港する如く神輿渡御を奉仕しよう。神様もお喜びになり、村々の人達も共々に喜び祝う事が出来る。

○表鳥居のうた

みそぎする　あさのあらしに　いよ　なみかけて
　ながれひさしき　みや江なりけり ……千歳楽萬歳楽

日々新たに清々しい朝を迎える如く、禊ぎを行い、身も心も清め正す流れの途切れる事なき素晴らしい宮前の水辺である。

○かるも川八雲橋詰のうた

津の國の　武庫の港に　いよ　船かけて
　あの山見され　この山見れば
　いのち長田に　いよのみやたち ……千歳楽萬歳楽

摂津国の武庫の港より船出して、沖より東西の山々を眺望せば、我等が日々の生業を営む長田の地に、神徳灼かな長田大神を崇め祭る御社を見る事が出来る。

○馬場先鳥居前のうた

さだのみや　神もそなわる　いよ　松見れば
　ちよ江ちよ江と　まさりなりけり ……千歳楽萬歳楽

氏神と仰ぐ長田宮に茂る松樹の常磐の緑の照り映え栄える如く、いついつ迄も加護戴ける事は有難い事だ。

○神楽殿前還御のうた

ありがたや　まもりをおきて　いよ　里人の
　末は世の中　長田山中 ……千歳楽萬歳楽

有り難い事だ。神の恵みと守護を受ける里人達には、これからの日々も、この長田の里も、安泰で立ち栄える素晴らしい処である。

○本殿前還興のうた

ちはやぶる　神の長田に　いはをとこめ
　ちよにかさねて　よろづよやへん ……（柏手）

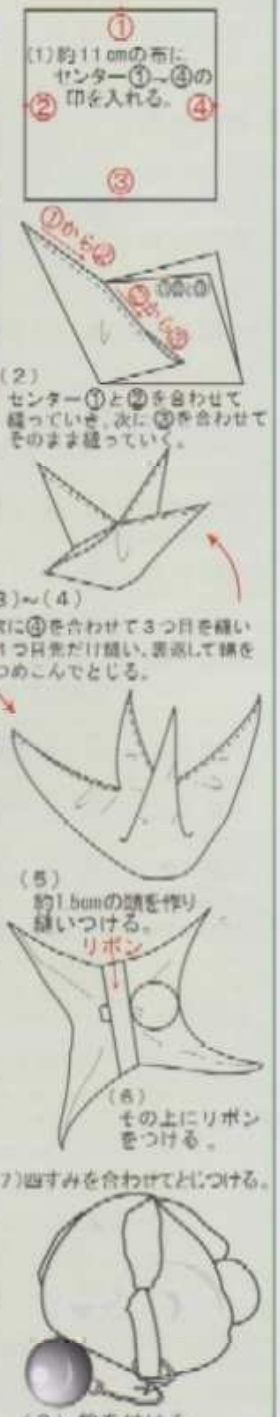
霊験いよいよ灼かな長田の神に　お祝いと感謝の言葉を心を籠めて千回にも及ぶ如く捧げて、幾久しき万代の加護をいただこう。

昭和51年（西尻池郎）

★人形（普通サイズ）の作り方

（その他　大、小と作って下さい）

奥丁が身につけている人形は『身代わり人』というお守りです。お神輿が神社を出ると、見物人にたちまちもぎ取られてしまいます。奥丁は「他を持っていってくれる」というご利益があり、渡御巡幸中の身の安全をまもってくれます。また、取った見物人は家に持ち帰り、長田神社にお返しすると同じく「厄を持っていってくれる」というご利益があります。



★練習風景

昭和59年（長田部・長田東部・長田北部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

★奉仕前日の須磨海岸における禊

平成6年（御神輿北部・御神輿南部・池田部）

長田神社 神幸祭 舁番

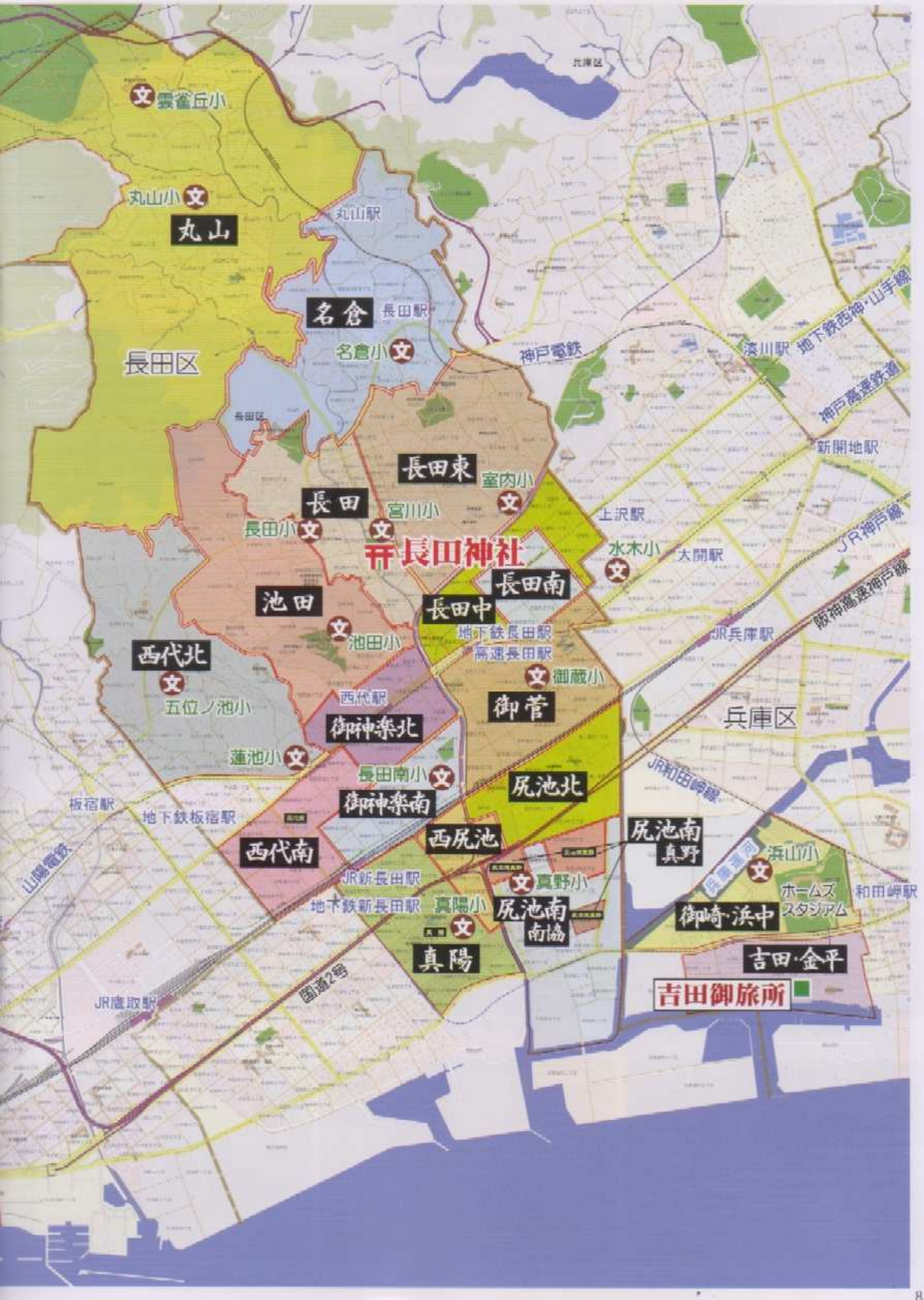
(S55～H22)

昭和55年	御修造事業中断
昭和56年	西須磨
昭和57年	西代北・西代南
昭和58年	御神楽北・御神楽南・池田
昭和59年	長田・長田東部・名倉・丸山
昭和60年	長田中部・長田南部
昭和61年	御菅
昭和62年	尻池北部
昭和63年	陛下御不例
平成1年	運南地区(御崎・浜中、吉田・金平)
平成2年	尻池南部
平成3年	真陽・西尻池
平成4年	西須磨
平成5年	西代北・西代南
平成6年	御神楽北・御神楽南・池田

平成7年	阪神淡路大震災
平成8年	中止
平成9年	
平成10年	
平成11年	
平成12年	
平成13年	長田・長田東部・名倉・丸山
平成14年	中止
平成15年	
平成16年	長田中部・長田南部
平成17年	中止
平成18年	
平成19年	
平成20年	
平成21年	
平成22年	

長田神社 氏子地区図

着色　長田神社の各氏子地区


雲雀丘小
丸山小
丸山
丸山駅
名倉
長田駅
名倉小
長田区
長田区
長田東
室内小
長田
宮川小
長田小
長田神社
上沢駅
水木小
大開駅
長田南
池田
長田中
池田小
地下鉄長田駅
高速長田駅
JR兵庫駅
西代北
御蔵小
五位ノ池小
西代駅
御菅
御神楽北
兵庫区
蓮池小
長田南小
尻池北
御神楽南
板宿駅
地下鉄板宿駅
西尻池
尻池南
真野
西代南
浜山小
JR新長田駅
真野小
ホームズスタジアム
和田岬駅
地下鉄新長田駅
真陽小
尻池南
南協
御崎・浜中
真陽
吉田・金平
吉田御旅所
JR鷹取駅
国道2号
山陽電鉄
JR和田岬線
阪神高速神戸線
JR神戸線
神戸高速鉄道
地下鉄西神・山手線
新開地駅
浜川駅
神戸電鉄
兵庫運河

3．おみこしのある風景 ～懐かしの写真～

昭和25年頃（西須磨部）

昭和30年年代（御菅部）

昭和30年年代（御菅部）

昭和30年年代（御菅部）

昭和30年年代（御菅部）

昭和50年（尻池南部）

昭和51年（西尻池部）

昭和51年（西尻池部）

昭和51年（西尻池部）

昭和51年（西尻池部）

昭和51年（西尻池部）

昭和52年（真陽部）

昭和52年（真陽部）

昭和52年（真陽部）

昭和52年（真陽部）

昭和52年（真陽部）

昭和59年（長田部・長田東部・長田北部）

昭和59年（長田部・長田東部・長田北部）

昭和59年（長田部・長田東部・長田北部）

昭和59年（長田部・長田東部・長田北部）

昭和59年（長田部・長田東部・長田北部）

昭和61年（御菅部）

昭和61年（御菅部）

昭和61年（御菅部）

昭和61年（御菅部）

昭和61年（御菅部）

昭和62年（尻池北部）

昭和62年（尻池北部）

昭和62年（尻池北部）

平成元年（東南地区）

平成元年（運南地区）

平成２年（尻池南部）

平成２年（尻池南部）

平成２年（尻池南部）

平成２年（尻池南部）

平成２年（尻池南部）

平成４年（西須磨部）

平成４年（西須磨部）

平成４年（西須磨部）

平成４年（西須磨部）

平成５年（西代北部・西代南部）

平成５年（西代北部・西代南部）

平成５年（西代北部・西代南部）

平成５年（西代北部・西代南部）

平成５年（西代北部・西代南部）

平成６年（御神楽北部・御神楽南部・池田部）

平成６年（御神楽北部・御神楽南部・池田部）

平成６年（御神楽北部・御神楽南部・池田部）

平成６年（御神楽北部・御神楽南部・池田部）

平成６年（御神楽北部・御神楽南部・池田部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

平成13年（長田部・長田東部・長田北部）

平成16年（長田中部・長田南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

平成16年（長田中部・長田南部）

4．長田神社のその他の行事について

■商工業繁栄祈願祭（商工祭）

商工祭は神戸市内商工業の繁栄発展を祈願して行われ、平成22年で75回を数えますが、記録によると、江戸時代にすでに長田神社が商売の神様として信仰されていたようです。

第１回は昭和11年に行われ、当時、神戸市は日本一の貿易港として、また阪神工業地帯の中枢として商工業の発展はめざましく、中でも長田神社氏子区域周辺は、神戸市産業の中心でした。祭神［事代主神］が福の神、商工業繁栄の守護神として市民の信仰を集めており、氏子会で全市民的な商工祭として毎年4月22日に行う事が決められました。戦争中の昭和20年も空襲の中で行われ、昭和22年には、市内各商店街、会社工場から寄贈された商品七千点の福引大会が催され、物資不足から市民に大好評で、その後、商工祭の名物行事として毎年盛大に催されています。また、第19回（昭和29年）から、市内中学、県下高校の相撲選手権大会が始まりました。

４月29日の宵宮祭では、神戸市内の商店街の女子代表による華やかなパレードが長田神社から商店街にかけて行われます。

５月１日の本祭では、縁起物として『福餅』が振る舞われるほか、カラオケ大会や特賞景品抽選会が催されます。

２日には献花祭と茶席が、３日には奉納相撲大会が行われます。

神戸市内商店街女子パレード（4月29日）

福餅まき（5月1日）

■夏越祭

夏は、太陽の強い光を受けてすべてのものが成長する時であるとともに、昔から強い暑さが原因の病気が流行し、体調を崩す時でもありました。

７月17日・18日に行われる夏越祭は、身も心も清らかにし、神様のご加護を受けて、暑い夏を元気に無事に過ごせるよう、氏神様にお参りする古くから行われてきた夏のお祭です。

「茅の輪（ちのわ）くぐり」は、茅の輪をくぐって、夏に青々と伸び茂る茅（ちがや）の持つ強い生命力を授かり元気であることを願うとともに、災いをおはらいする神事です。

茅の輪の由来は、善い行いをした蘇民将来（そみんしょうらい）が素盞男神（すさのうのかみ）から「もしも疫病が流行したら、悪疫除去のしるしとして、茅の輪を腰につけると免れることができる」とのお告げにより、夏の疫病をのがれたとの伝承によります。（備前風土記より）

また、**「人形（ひとがた）」**は人の体に似せて作った紙の人形に名前と年齢を書き入れ、体の悪いところをなで移し、さらに息を三度吹きかけて心も身も清めて無病息災を祈り願うおはらいの神事です。

第22回（昭和32年）の奉納相撲大会

長田神社境内の茅の輪くぐり

☆茅の輪のくぐり方

①まず、茅の輪の前に立ち一礼し、左足からまたいで輪をくぐり、左に回って元の位置に戻る（1回目）

②茅の輪の前で一礼し、右足からまたいで輪をくぐり、右に回り元の位置に戻る（2回目）

③1回目と同様に、左足からまたいで輪を右回りにくぐり、元の位置に戻る（3回目）

④茅の輪の前で一礼し、左足からまたいで輪をくぐり、ご神前まで進みます

なお、茅の輪をくぐる時は、

「水無月の（みなつき） 夏越の祓（はらえ）ひ（ひ） する人は（ひと） 千歳の命（ちとせ） 延ぶといふなり（のび）」という和歌を唱えます。

☆人形の書き方

私たちが日常知らず知らずに犯している罪（苦しみ・悩み）やけがれ（気力の衰え）をこの人形に託しておはらいをする古くからのうるわしい神事です。

この人形に氏名・年齢を書き、まず、身体をなで大きく息を三回吹きかけて、茅の輪をくぐった後に拝殿前の箱にお祈りとともに納めます。

■長田神社古式追儺式

追儺式〔ついなしき〕は、室町時代（約650年前）より続く、昔の暦で新年である立春を祝い迎えるおはらいの行事で、各家庭で行なわれている豆まきと同じ行事です。古い形態を今に伝える貴重な神事として、鬼面と行事一式が昭和45年に兵庫県の重要無形民俗文化財に指定されています。

一般に、鬼は不吉なもの、種々の不幸や災いをもたらすものとされ、この鬼を追払って来るべき新年の幸せな家庭、健康を願いますが、**長田神社追儺式の鬼は神々のお使い**として、松明〔たいまつ〕の炎で種々の災いを焼きつくし、太刀〔たち〕の刀〔やいば〕で寄り来る不吉を切り捨て、一年の家内平安、無病息災を願って一陽来復〔いちようらいふく〕の立春が再び巡り来ることを踊り舞って喜び祝い、お祓いをします。

当日、社殿の前には舞台を設け、拝殿正面に太陽と月を表わす**泰平の餅**〔たいへいのもち〕、その左右に日本全国を表わす**六十四州の餅**〔ろくじゅうよしゅうのもち〕をそれぞれ榊葉〔さかきのは〕で飾ってぶら下げ、舞台中央には一年十二ヶ月を表わす十二個の**影の餅**（別名鬼の餅）を据え、拝殿には柳の大枝に餅とミカンをつけて花が咲いた様にし、宇宙や星、また人々を表わす**餅花**〔もちばな〕を飾りつけます。

行事は午後1時の節分祭に始まり、①鬼、太刀役〔たちやく〕、肝煎り〔きもいり〕の人々は、鬼の宿より神社に向かい（練り込み〔ねりこみ〕）、祭典に参列の後、社殿裏にある鬼室〔おにむろ〕で鬼の支度をします。

午後2時、②まず、太鼓、ほら貝の音に合せ、**一番太郎鬼**〔いちばんたろうおに〕が右手に麦わらで作った松明〔たいまつ〕を持ち踊りながら三度登場、③続いて各々松明を持った**赤鬼**〔あかおに〕、**姥鬼**〔うばおに〕、**呆助鬼**〔ほおすけおに〕、**青鬼**〔あおおに〕、一番太郎鬼の順で現われ五匹が揃っての演舞を二度行います。④次に大役鬼と言う**餅割鬼**〔もちわりおに〕が右手に松明、左手に斧、**尻くじり鬼**〔しりくじりおに〕が腰に槌〔つち〕、右手に松明、左手に大矛〔おおほこ〕を持って踊ります。⑤次いで赤鬼以下五匹が舞台東側に登場し、太刀役の子ども五人から太刀を順に受取り（太刀渡し〔たちわたし〕）、右手に松明、太刀を左肩に演舞した後、舞台の西側で順次太刀役に太刀を返します（太刀納め〔たちおさめ〕）。そして再び餅割鬼、尻くじり鬼の二匹が現われ、⑥さらに御礼参りと言って先の五匹が現われ、踊ります。

その後、⑦この行事の最高潮の見せ場である**餅割行事**が、餅割鬼、尻くじり鬼の二匹により、泰平の餅、六十四州の餅、影の餅を割ろう（お祓いを表わす）といろいろな面白い所作を繰り返しながら踊り、⑧最後に餅割鬼が影の餅を斧で割り、鬼室に退下して行事は終わります。

鬼が振りかざした松明の燃え残りを厄除けの朱印入りの白紙に包んで麻のひもで結んだ松明を持ち帰り、軒先や玄関に吊るし、餅花や厄除けの餅を食べ無病息災、家内安全を願って、一年間の平穏無事を祈るのがこの地域の昔からの風習です。

玄関先につるされた松明

長田神社古式追儺式の鬼面（兵庫県重要無形民俗文化財）
鬼の格の上位から順に、①餅割鬼、②尻くじり鬼、③一番太郎鬼、④赤鬼、⑤青鬼、⑥姥鬼、⑦呆助鬼

泰平の餅と六十四洲の餅

影の餅（十二ヶ月の餅）

拝殿に飾られた餅花

餅をつく鬼役の人たち

長田神社古式追儺式の流れ

①練り込み（八雲橋）12：30頃

⑤太刀渡し　16：15頃

②一番太郎鬼の登場　14：10頃

⑥御礼参り　17：15頃

③鬼５匹勢揃い　14：45頃

⑦餅割りの儀　17：50頃
（写真は斧と槌の交換）

④餅割り鬼・尻くじり鬼の舞
15：45頃

⑦餅割りの儀　18：20頃

輿丁〔よちょう〕の法被〔はっぴ〕の鶴のデザインの由来について

神輿の屋根の上に飾る鳥、鳳凰〔ほうおう〕は想像上のめでたい瑞鳥〔ずいちょう〕であり、鶴も千年の寿命を保つという鳥です。奉仕の輿丁の着る法被は、この由来に基づいています。

この冊子は、兵庫県のまちのにぎわいづくり一括助成事業の補助により発行しています。　平成22年11月